



1
会場のMIRAIEリアンコミュニティホール七間町



2
会場入口

晴天に恵まれた立春の2月4日(土)の午後、すこやか長寿祭熟年メッセージ大会実行委員会および公益財団法人しずおか健康長寿財団の主催による「第17回すこやか長寿祭熟年メッセージ大会」が静岡市内の繁華街の一角にあるMIRAIEリアンコミュニティホール七間町にて開催されました。

前回まではオープニングセレモニーや各種のホールアトラクション、エントランスアトラクションが表彰式に合わせて行われましたが、今回は会場を市街地に変更し、表彰式と表彰作品の発表、関連活動の発表等に絞ることによりコンパクト化し、新たな企画としては「意見交換会」を加え、より実効性を高める大会開催となりました。



3
会場受付



4
会場ホール

熟年世代がこれまで培ってきた知識や豊富な経験などを次世代に伝え、活用していくための手段として熟年メッセージ発表の機会を設けることにより、急速に進展する高齢社会において世代間の交流を促進し、多世代間の生活観・価値観の違いを理解し合うことにより、誰もが生きがいを持ち続けて、健康で安心して暮らせる長寿社会の構築を目指すことを本大会の目的としています。

会場ホールの後方には大会関連団体の展示ブースが設けられています。今回は「子ども刮目舎」、「しずおか健康づくりサポーター 森永乳業株式会社」、「若者発“居場所”あり方研究会」の3団体と「しずおか健康長寿財団」が出展しました。



会場ホール内の⁵展示ブース



しずおか健康長寿財団の⁶ブース



開会式 ⁷

大会実行委員 ⁸

開会にあたり公益財団法人しずおか健康長寿財団の佐古伊康理事長より挨拶がありました。

熟年メッセージとは・・・

- ・静岡県内に居住し、ご自分を熟年だと思われる方(グループも可)が対象で年齢制限無し
- ・テーマは自由(心に残る感動体験、私の生きがい、次世代に伝えたいこと等)
- ・2000字以内の文章または発表時間10分以内の映像等の作品
- ・募集期間は平成28年7月1日～9月30日の3か月間

第17回となる今回は94作品が集まり、大会実行委員による審査を経て次の入賞作品が決定しました。

- グランプリ 鈴木しめ子さん(島田市)「老樹の枝に花咲くごとく ～そよ風となって～」
準グランプリ 阿部廣美さん(焼津市)「笑いの使者」
第3位 前嶋康枝さん(袋井市)「本物の体験感動で、未来に羽ばたく子を —子ども刮目舎—」
はつらつ賞 池田茂さん(静岡市)、柴美重子さん(森町)、杉村喜美雄さん(島田市)、松下芳子さん(浜松市)、吉田博さん(熱海市)の5作品

表彰式にはグランプリ、準グランプリ、第3位を受賞された3名の方々が登壇され、西谷実行委員長より表彰状、佐々木審査委員長より副賞が贈られました。

表彰式に続き上位入賞の3作品が各受賞者より順次発表されました。



県来賓の臨席にて佐古理事長の開会挨拶 ⁹

入賞者表彰 ⁹

最高位グランプリ受賞の鈴木さんは、自宅の庭にある樹齢70余年の柿の木が長い間枯れ木状態であったのに、今春に新芽が芽吹き再び数十枚の青葉をつけたことに感動し、自らの過去と未来の姿を重ね合わせメッセージとして綴られたものです。長い教員人生で得られた、気付かぬうちに受けていた人の恩への感謝の気持ちや孤独に陥りがちな子供への思いやり。こうした経験や知識は貴重な財産であり、次世代へもつないでいきたい。それは自然界のごとくさり気なく ～そよ風となって～



11
グランプリ受賞の鈴木しめ子さん



12
準グランプリ受賞の阿部廣美さん

準グランプリ受賞の阿部さんは、人生における「笑い」の大切さを熱弁されました。阿部さんも教員を勤めあげ中、部活動では落語部の顧問を38年続けられ、生徒とともに老人ホーム慰問等、高齢者との交流を図ってきました。退職後は12名の教え子らと「与太郎塾」を結成し、落語や笑い与健康についての講演で県内各地を訪問されています。実際に「笑う」ことにより高齢者の病気のリハビリに役立ったことや児童の不登校が改善されたことが背中を押し続けます。熟年真っ只中、まだまだ心は青春。朗らかに、軽やかにそして熱く燃える笑いの使者、阿部さんです。

第3位受賞の前嶋さんはインフルエンザに罹患してしまい、表彰式に出席できず、代理の方が受賞と作品発表を行いました。地元の小学校出身者の支援がきっかけで2014年6月に開塾した「子ども刮目舎」は地元の児童を対象とした、学校では学べない体験をさせる学習の場です。スタッフは退職後や、子育てを終えて少し身軽になった熟年の方々18名です。児童には自主的な学習や読書、社会見学、農業体験等を通して健全な育成を図り、自立した人間形成のための基礎作りを目指しています。そしてそこに一貫しているものは「本物」に触れること。こうしたスローガンは児童だけでなく、スタッフにとりましてもやりがいと喜びとなっています。



13
第3位受賞の前嶋康枝さんの代理



14
佐々木審査委員長の講評

受賞作品発表後は佐々木審査委員長より講評をいただきました。こうした熟年世代の活動がより広がり、様々な世代との交流を生み、静岡県の長寿の街づくりに大きく貢献することを期待されました。

次は今回新たな企画として行われた「意見交換会」です。西谷実行委員長と佐々木審査委員長が進行役を務め、コメンテーターとしては熟年世代の受賞者3名と若い世代として常葉大学の学生さん2名(松下凌馬さん、村里駿さん)が参加されました。この二人は大学の同好会「若者発“居場所”あり方研究会」に所属しており、長寿者をはじめとする様々な世代の“居場所”を考え実証していく活動を行っています。



意見交換会 ¹⁵



会場参加者からの質問 ¹⁶

これからの長寿社会について熟年世代と若者世代とがともに意見を出し合い、活発な討論が展開されました。会場席からは質問も出るなど、関心の高さが窺われました。



学生さんからの質問も ¹⁶



子ども刮目舎の活動発表 ¹⁸

第3位受賞者前嶋さんの所属団体「子ども刮目舎」の活動発表では実際の指導法の一部が紹介され、会場の皆さんも理解を深められたと思われます。



紙芝居「静岡花子さんの健康長寿の秘訣」 ¹⁹ 生きがい特派員の活動発表 ²⁰



最後はしずおか健康長寿財団より、紙芝居「静岡花子さんの健康長寿の秘訣」の紹介と、県内で活躍される高齢者の活動の情報収集・発信を行う「生きがい特派員」の一人、荒木弘子さんから「百寿者に聞いた健康長寿の秘訣」について解説が行われました。

静岡県の健康寿命は全国トップレベルを誇り、さらなる延伸を図るため公益財団法人しずおか健康長寿財団はじめ様々な団体、組織が活動されています。健康寿命をさらに延ばし、元気で活力ある静岡県にするためには熟年世代だけでなく若い世代の方々のご理解、ご協力が必要となります。本取材を通して、熟年メッセージ大会が世代間の交流の場となり、健康長寿社会への貢献や相互支援へのつながりに役立っていると実感した次第です。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章